

KSKP

No. 2

障害者情報クラブニュース

車いすガイドブック
完成！情報クラブ代表
井上 聖

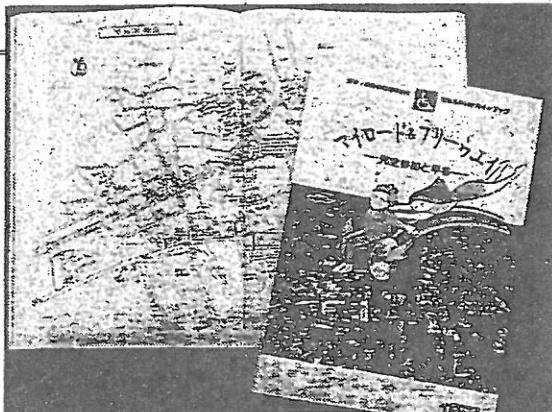
障害者情報クラブ設立以来、第2回目の車いすガイドブックを発刊することが出来ました。

第1回目は、1989年9月23日に開催された「第9回車いす市民全国集会・宝塚分科会」において、遠来の宿泊者の便宜を図るために、市内中心部を簡単に紹介したものでしたが、今回発刊した「車いすガイドブック・マイロード&フリーウェイ」は、B5版 132ページで阪急電鉄の駅周辺を中心に、市役所、安倉、西谷地区の状況を掲載しています。

はじめは、37ページ程度を企画していたのですが、調査にご協力いただいた個人・団体の方々のおかげをもちまして、制作の最大の目的である障害者の情報確保は、予想をはるかに越えるものとなりました。

ただ、制作するための委託期間が限られていたため、膨大な情報をうまく編集することが出来ず内容が少々雑になったことが残念です。次回は、もう少し余裕のある方法を考えています。

「車いすガイドブック・マイロード&フリーウェイ」の制作にかかわってくださった、全ての方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

▲障害者用設備の情報を満載した
「車いすガイドブック」

目 次

車いすガイドブック完成！	1
ご存じですか？住宅改造資金制度	2
第2回車いすウォークラリー	
反省会報告書	3
新しくなった阪神競馬場を	
視察に行ってきました！	4
大森君、ご入学おめでとう！	5
玉置君、ご入学おめでとう！	5
リフト付きタクシーに乗ってみて	5
今年の活動方針	6
会員募集	7
外出介助の会だより	7
ひろげよう 豊かな こころ	8
西谷中学校にて	8
スポーツ	8
情報クラブからのお知らせ	9
医院紹介	9
みんなで成功させよう！	
第3回車いすウォークラリー	10
編集後記	10

ござりますか？ 住宅改造資金助成制度

介助を必要とする65歳以上の方・重度障害の方が住まいを暮らし安くするために住宅を改造する場合、その資金を宝塚市が助成いたします。

【対象者】・身体的障害により介助が必要な65歳以上の方

・身体障害者手帳1、2級または療育手帳Aで介助が必要な方

【対象箇所及び基準額】

住宅の改造の箇所	基 準 額	住宅の改造の箇所	基 準 額
浴室・洗面所	300,000円	廊下・階段	100,000円
便 所	300,000円	居 室	100,000円
玄 関	300,000円	台 所	100,000円

【助成金の額】

基準額と実際の工事費とのいずれか低い方の額から下記の表の申請者負担率により計算された自己負担額を差し引いた額となります。（1,000円未満の端数があるときは、切り捨てます）。

申請者の属する世帯の階層区分		申請者負担率
A	生活保護法による被保護世帯	0%
B	生計中心者の前年分所得税被課税世帯	
C	生計中心者の前年分所得税年額が32,400円以下の世帯	20%
D	生計中心者の前年分所得税年額が32,401円以上 120,000円以下の世帯	40%
E	生計中心者の前年分所得税年額が 120,001円以上 397,000円以下の世帯	60%
F	生計中心者の前年分所得税年額が 397,001円以上 929,400円以下の世帯	80%
G	生計中心者の前年分所得税年額が 929,401円以上の世帯	100%

【申 請】

申請には工事計画書、工事被見積書等が必要です。工事が始まってから申請をされても受け付けることができませんのでご注意ください。

詳しくは、高年福祉課（高齢者の方）、障害福祉課（障害のある方）までお問い合わせください。

第2回 車いすウォークラン 反省会報告書

— 1991 —

主 催 障害者情報クラブ、宝塚中学校区青少年育成市民会議

後 援 宝塚市、小浜自治会、宝塚市教育委員会、宝塚市社会福祉協議会
 宝塚市善意銀行、自治労宝塚市職員労働組合、宝塚市肢体障害者協会
 宝塚ろうあ協会、宝塚内部障害者の会、宝塚中途難聴者の会
 宝塚外出介助の会、宝塚心身障害対策市民懇談会

協 力 宝塚レクリエーション協会、宝塚文化財ガイド・ソサエティー
 スーパー・マスダ、いずみ会、宝塚市ガール・スカウト
 宝塚市ボーイ・スカウト、手話サークル・ほほえみ
 宝塚視力障害者協会

協 賛 大塚製薬株式会社、ぼんち株式会社

決算会計

《収入の部》

会費 (500円×231人)	115,500円
宝塚中学校区	
青少年育成市民会議	30,000円
宝塚善意銀行	45,000円
自治労宝塚市職員労働組合	20,000円
宝塚内部障害者の会	3,000円
心障懇	50,000円
(朝日福祉助成金 130,000円)	
バザー収益	51,330円
寄付及び助成金	40,000円

《支出の部》

昼食材料費	150,000円
調理器材賃借料及び燃料費	50,000円
調査費	14,250円
通信費	37,040円
小浜自治会謝礼	10,000円
保険料 (40円×120人)	4,800円
パンフレット等 印刷費	36,000円
写真ビデオ撮影費用	11,060円
会議費	30,410円
雑費	5,213円
残金	6,057円

収入合計

354,830円

支出合計

354,830円

*参加者は、234名+いずみ会（人数不明）で、10名程度の会費未納者あり。

*今後も障害者情報クラブが行う行事では、主旨を十分に説明し理解してもらい、
 スタッフからも会費を徴収する。

*今回は第1回と違い多くの助成をいただくことができたので、辛うじて黒字に
 なったが、今後も開催していくためには安定した財源確保が望まれる。

新しくなった阪神競馬場を視察に行ってきました!

——ドキドキワクワク、初めての競馬体験レポート——

情報クラブでは、住みよい街づくりの為に作成した『車いすガイド・ブック』の修正事業の一環として、去る6月13日の土曜日、仁川にある阪神競馬場にいってきました。

参加者は、午前10時30分に阪急仁川駅前に集合ということだったので、私は少し早目に家を出て、電車に乗る為に阪急逆瀬川駅に向かった。

梅雨の晴れ間の土曜日で大安も重なった為か、道路はもう渋滞が始まっていた。逆瀬川駅の車椅子用入口でインターホーンを押すとすぐに応答があり、駅員さんが迎えにきた。

「どちらまで行かれますか？」

「はい、ちょっと仁川駅まで…」

「先ほどもお一人、車椅子の方が電車で行かれましたが、何か行事でもあるんですか？」

「はい、ちょっと……」

「今日は競馬の開催日でたくさんの人ですから、気を付けていってくださいネ」

「どうも有難うございます。」

駅員さんの親切な対応に、すっかり恐縮しているうちに、ホームに電車が入ってきた。

どの車両も人、人、人。車椅子が格好いいからか、私がさっそうとしているからかどうかは定かではないが、駅員さんに乗せてもらう私に乗客の視線が集まつた。有名人になつた気分で、電車はあの仁川駅に着いた。人混みの中をホームへ降りると階段が5~6段あり、手摺りをもつて自分で降り掛けると慌てて駅員さんが跳んできて介助してくれた。お礼を行つて駅の外へ出ると、もう吉田君が待つており、二人で話をしながらしばらくたつと、次から次と今日の参加者が駅から出てきた。毎月2回の定例会に比べると、凄い出席率でわずかの時間に、遅れてくるという坂上氏を除く全員が揃つたので、いざ競馬場へ。

突然の大きな悲鳴でみんなが振り返ると、ビデオ撮影担当の河江さんが今にも泣き出しそうな顔で、バッテリーがあがっていてビデオの撮影ができないという。急遽写真撮影に

切り替えて気持ちはお馬さんへと急ぐ。沿道には、驚いたことに占い師さんが今日の当り馬券の予想表を売っていたり、競馬新聞と赤鉛筆だけを売っているお店や、帰りに負けた腹いせに立ち寄るためか、それとも勝って気分よく飲むためか、お酒やいい匂いを漂わす焼き鳥やさんなどが立ち並んでいる。片手に競馬新聞、もう一方の手には赤鉛筆を握り締め、耳にはミニラジオのイヤホーンジャックをつけた人々の波は、急な坂道をまるで洪水のように入口へと流れゆく。目の前に現れた観客席には何万人くらいの人がいるのだろうか？ まるで、子供の頃どこの家庭にもあった大きなマッチ箱に並んだマッチ棒のようにぎっしりと詰まつた観客席がざわめいている。6階建てのこの建物は各階に車椅子用トイレがあり、馬券発売窓口や売店、レストラン、ファーストフードショップなどもいたるところにある。

エスカレーターは、車椅子の幅では利用できないものもあるが広いものもあり、エレベーターもある。3階に車椅子専用の観客席が用意されているか数は多いと言えず、私達がいったときには、朝4時頃起きてきたという高知の人や、阪神近辺からこられた様子の車椅子の人達で一杯だった。

コースのとなりには一面を緑の芝生に被われた公園がある。噴水も上がつていて若い恋人たちやお年寄りの憩いの場となっている。

またいろんな遊具や乗り物があるスペースキッズでは親子連れの歓声が上がる。

ひととおり調査を終えて、今日の反省会をかねた少し遅めの昼食会をレストランで取つた。広い場内を歩き廻つたにも係わらず、全員疲れも見せず午後2時頃解散した。この後私は今日の調査の成果を試そうとただ一人で馬券発売所へ。おかげでひどい目にあい、しょんぼりと帰路についた。入場券は他の遊園地に比べると安いので、今度は調査抜きで息抜きに行きたいと思っている。（藤原）

大森君、入学がめでとう！

この4月、県立尼崎南高校良元分校に、大森成樹君が入学した。同校への知恵遅れの障害児の入学は昨年の児玉君に次いで2人目。

公立高校への入学は東京都、大阪府以外では今まで殆ど無かっただけに、2年続けて宝塚市で入学者がでたことは快挙と言えるだろう。

世界的に統合教育が叫ばれている中、日本では相変わらず「専門教育」の名の下に「隔離」と言っても過言ではないような養護学校教育がまかり通っている。養護学校の存在を否定しようとは思わないが、現存の養護学校が詭弁の下に隔離施設と化していることは事実である。そんな状況の中、家族やそれを取り巻く人達の努力により、小学校、中学校までは障害児も普通校に通う場合が出てきた。しかし、高校となると「義務教育ではない」ことを盾に、近年までは門戸が閉ざされていた。

今回の2年続けての快挙は、後に続く多くの知恵遅れの障害児に光明を与えるだけでなく、依然として障害児の高校進学に否定的な近隣市町に与える影響は大きいだろう。

現在、大森君は昼間、関西学院大学生協で働いている。

(坂上)

玉置君、入学がめでとう！

昨年1年間、いろんな意味で日本中の障害者の話題をさらった市尼崎高校問題の渦中にあった玉置真人君が、この4月、西宮市の関西学院高等部に入学した。個人的には筆者の後輩になる。そして、通学の便を考えて奇しくも宝塚市に住まいを移すことになった。

この問題では、障害者情報クラブも署名や各方面でアピールを行なって協力してきた。

彼が、市尼崎でなく関学を選んだことについては賛否両論あるが、私たちとしては本人の意思を尊重したいと思う。

現在、玉置君は新しい電動車いすを手に入れ、生き生きとした高校生活を送っている。

マスコミの取材を一切受け付けない本人の希望を尊重して、私たちが玉置君を取り上げるのも暫く止めにしたい。

(坂上)



リフト付きタクシーに乗ってみて…

先日、制度開始から1年以上経ったリフト付きタクシーの福祉タクシーハードを利用してみた。

朝早く神戸に行かなくてはならなくななり、前日に予約。当日は、神戸まで1時間30分ほど掛かり、料金は制度を利用して1万円近くになった。とてもじゃないが、「公共」交通機関とは言えない料金だ。制度の適用も初乗りだけなので、遠方への外出に対しては殆ど意味が無い。むしろ、手帳を出したり書類を書いたりするのがおっくうに感じる。しかし、逆に言えば初乗りで行けるところは殆ど無料になる。

帰りは、時間があったので電車を乗り継いで帰ってきた。500円も掛からなかった。もし、バスに乗れたとしても600円前後に収まる筈。リフト付きタクシーに乗ってみて実感したこととは、電車、バスなどの公共交通機関を障害者が使えるようにすることが急務である。

(坂上)

今年の活動方針

☆基調骨子

昨年1年かけて、私たちの長年の夢であった車いすガイドブックが完成した。

これをステップとして、障害者情報クラブは次の段階に進むことを考えなければならない。次の段階とは、昨年から私たちが提唱している地域と密着した障害者への情報提供機関としての障害者コミュニティ・センターのことである。最終的な目標は、自立生活センターではあるが、現在のところそこまで条件が整備されていない。今年から数年間は、今までの活動を継承しながら、障害者コミュニティ・センターの設立を目指しつつ、自立生活センターの調査研究を行なっていく。

☆街づくり

1. 「宝塚市福祉都市施設整備要綱」の

効果的運用と条例化について

街づくりそのものの基準として、現在宝塚には「宝塚市福祉都市施設整備要綱」（以下「要綱」と略す）がある。しかし、車いすガイドブックの取材をして分かったように、同要綱を全く無視して建てられている建築物は依然として存在している。神奈川県や神戸市にみられる建築基準条例には、法的拘束力・強制力があるのに対して、宝塚市の無力な要綱には苛立ちすら覚える。一方、兵庫県では「福祉の街づくり条例」が整備されつつあり罰則規定として罰金または企業名公表が盛り込まれることがほぼ確実となった。つまり、これによって「要綱」自体が有名無実化する恐れが出てきたと言える。こういう状況だからこそ、「要綱」に法的拘束力・強制力を持たせる為に、「要綱」を条例化することが必要となってくる。

2. 再開発事業について

現在進められている宝塚駅周辺の再開発も終盤を迎つつある。再開発というのは街を創っていく事業のはずであるが、障害者や高齢者は未だに、その街に住み、その街を利用する対象とは考えられていない。再開発で考えられる“人”的動線は健常者だけの動線で

あり、住居は健常者の住居に過ぎない。街は市民が利用するものなのに、障害者や高齢者はその範疇には入れない。このような基本的なコンセプトを変えさせるとともに、今後行なわれる仁川地区、壳布神社地区の駅前再開発に於て、計画の全ての段階で障害者・高齢者の意見を取り入れさせる必要がある。

☆公共交通環境へのアクセス

1. 路線バス

現在宝塚には、阪急バス、阪神バス等の路線バスが営業しているが、車いす利用者が1人で乗車できるバスは1台もない。これらのバスの多くには「国際障害者年」シンボルマークが車体に描いてあるが、その内実は「介助者がいれば乗せてやってもいいよ」という程度で、事実上の乗車拒否の状態になっている。電動車いす利用者には見向きもしてくれない。

大阪市では昨年の11月からリフト付きバスの運行を開始し、今後の新規購入車両の多くがリフト付きであることから、全路線のリフト化も時間の問題のようです。京都市、横浜市、神戸市でも今年に入ってから運行されている。私たちの身近な交通機関としてのリフト付き路線バスの運行は、重度肢体障害者にとって就労、外出など生活全ての基本である移動の問題の解決への最も近い道である。

2. 鉄道

鉄道の駅の数から言えば、宝塚には阪急電鉄の10駅、JRの3駅がありますが、現在障害者にとってアクセシブルな駅は阪急の山本、清荒神及び逆瀬川の3駅だけしかない。

もちろん、この3駅とも決して使いやすいというわけではない。その他に、部分的に片側だけ利用可能な駅を入れても、阪急で7駅（仁川、小林、壳布神社、中山、現在工事中の宝塚駅は除外）、JRで1駅（宝塚）しかない。阪急については、営業努力で駅のエレベーター化、スロープ化をすすめているが、JRについては全く前向きな姿勢が見られない。神奈川県や大阪市では、駅をエレベータ

一化（エスカレーター化は除外）する時に、その費用の一部を自治体が負担し、残りを鉄道会社の自己負担とする要綱や条例がすでに実施に移されている。

3. 住居

住居は、衣食住という言葉があるくらい社会生活にとって掛け替えのないものである。

にもかかわらず、肢体障害者、特に車いす利用者にとっては非常に入手困難なものになっている。人によっては「健常者でも手に入れにくいのに・・・」という人もいるが、その困難さは比較にならない。



☆活動計画

- ・組織化、責任担当／事務局の強化（連絡網の整備、事務所設置、常駐体制の確立、情報収集整理部門、パソコン通信研究部門、障害者コミュニティ・センター、自立生活センター調査研究部門）、機関誌編集担当、ビデオ担当、探検隊(GB)担当、WR担当
- ・安定財源の確保／賛助会員の増員、GB寄付者や財団からの収入の安定化をはかる
- ・機関誌の定期的な発行
- ・調査研究活動の強化

会員募集

身体に、ハンディキャップを持つ人も持たない人も、みんな一緒に友情を深め合いながら、ともに生きる社会について語り合いませんか？ 障害者情報クラブでは下記の会員募集を行っています。

★正会員 2,500円（年会費）

★賛助会員 2,000円（一口）

いずれも事務局に連絡の上、銀行振込又は郵便振替で会費をお振込み下さい。

外出介助の会だより

◆外出介助の会とは？

皆さんのお知り合いに、いろいろな理由から、残念ながら外出を諦めいらっしゃる方はおられませんか？

そういう方のお手伝いを通して、お互いの交流を深めたいと考えているボランティアグループが「外出介助の会」と言います。

宝塚市内の、一人では外出が困難な高齢者や障害者の方たちについて、公的にカバーしきれない部分の外出のお手伝いをします。

どこかへいきたいけれど、ひとりでは心細いときは、宝塚ボランティア活動センター（☎0797-81-2443）にお申し込み下さい。

なお、ボランティアですから介助費は無料ですが交通費は介助者の分もご負担いただいております。

こんな方が・・・・

- ・車いすを押して欲しい方
- ・歩けるが、体力や視力、言葉などが不安なので付き添って欲しい方



こんなときに申し込んでください。

- ・病院や役所などに行きたいとき
- ・趣味やその他の会合にいきたいとき
- ・買物、散歩、友人宅へいきたいとき
- ・ホームヘルパー、ガイドヘルパー等の制度を活用できないとき

講演会

ひろげよう豊かなところ

——阪神県民大会——

2月8日(土)、伊丹市アイフォニック・ホールで開催された標題の行事で、代表の井上聖が車いすガイドブックの制作を題材に「社会づくり」というテーマで15分程度の講演を行なった。情報クラブからは、珍しく会員10数人が“さくら”に駆けつけ、あがり症の井上を盛り上げようとしたが、会場の反応はいまいち。ところが、聞いている人はきっちりと聞いているようだ。当日の主賓であり、最後に40分のメインの講演を予定されていた評論家の木元教子氏が、準備していたテーマを急きょ変更して、井上の発題内容を題材に話し始めた。木元氏の講演内容の変更により、井上は突如脚光を浴びることになってしまった。

教訓：いくら上がって、言葉が震えていようと、聞く耳がある人はちゃんと聞いている。だから、井上にはこれからもしゃべってもらう。(かば)

ス　ボ　ー　ツ

皆さん、ペタンクというスポーツをご存じですか？ソフトボールぐらいの鉄球をころがして、目標になる小さいボールに近づけ、点数を競うスポーツです。

車いすでも、健常の方と対等に競い合うことができて、いろんなかけ引きなどもあり、十分楽しめるニュースポーツです。1週間に2回程度、市役所の河川敷を利用して親睦をかねた大会などを開催しておられます。貴方も、体力づくりをかねたニュースポーツに挑戦してみませんか？

詳しくは、事務局または宝塚市体育指導員の岩田勇氏(0797-71-4365)にお問い合わせください。



座談会

西谷中学校にて

—— 1991年11月16日(土) ——

最初は私一人で「障害者と街づくり」というテーマで話をして欲しいという依頼があったんですが、私よりも面白い話、変わった話ができる会員たちに話をしてもらった方がいいだろうと思い、10人近くの障害者で押しかけることにしました。市内で唯一人の盲導犬利用者の中山さん、白杖利用者の中村さん、比嘉さん、療護施設入所の立場から早川さん、施設を出て一人暮しをしている立場から下地さんなど様々な立場から話してもらいました。中村さん、早川さんは、現在会員ではありませんが、この企画には是非参加したいという希望がありました。下地さんには、メインストリーム協会の副代表という立場から、同協会の行っているアーティスト(有料介助者)事業についての説明もしてもらいました。

会場には、西谷中学校の生徒、教員、PTA関係者のほかに、こちらの希望で西谷小学校の5・6年生にも来てもらいました。小学生に来てもらったのは、なるべく小さい頃から障害者とふれあうことにより、“無知”つまり知らないことによる差別を少しでも取り除きたかったからです。予想通り、座談会形式で歓談を始めると小学生からの質問の嵐になってしまいました。

「盲導犬は泳ぎますか？」

「盲導犬は溺れている人を助けてますか？」など、実に素直な質問が飛んでいます。座談会終了後は、父兄の方とのご招待で希望の家西谷で昼食。午後は、西谷地区の車いすガイドブックの取材を行いました。

宝塚の市街地から、車で10分程離れた、のどかな田園地帯西谷で、少しピクニック気分にもなれた晩秋の1日を過ごさせていただきました。

送迎から会場の準備、食事の用意から取材のお手伝いまでしていただきましたご父兄をはじめ関係者の皆さん、どうもありがとうございました。
(事務局長・坂上)

情報クラブからのお知らせ

◆定例会・宝塚豪華花火大会

とき：8月1日（土）午後1時30分
ところ：宝塚市立中央公民館306号室
情報クラブの定例会の後、ファミリーランドで夏の夜のひとときと一緒に過ごしませんか？

◆宝塚市身体障害者運動会

とき：10月25日（日）
ところ：宝塚市立良元小学校
誰にでも参加できる種目がありますので、みんなで来てくださいね。

◆情報クラブ定例会（月2回）

★第1土曜日

午後1時30分から4時まで
市立中央公民館

★第3土曜日

午後1時30分から4時まで
市立総合福祉センター

★8月の第3土曜日、15日の定例会は8日に変更します。場所は宝塚市役所福祉推進課前に集合してください。

◆情報クラブでは、みんなで集える場所を捜しています。格安で貸して戴けるお部屋がありましたら事務局まで知らせてください。

◆身障連の事務所移設

宝塚身体障害者福祉団体連合会の事務所は今まで塙本寿一會長が経営する会計事務所に設置されていましたが、このたび安倉の総合福祉センター内の団体事務室に移設されました。宝塚中途難聴者の会の萱原慎志氏が事務局長を引き受けられ、毎週水曜日は午前10時から午後5時まで、月曜日と金曜日は午前10時から午後1時まで執務につかれます。

医 院 紹 介

石田歯科医院

665 宝塚市仁川北3-12-15

Tel 0798(52)1974

診察時間／成人歯科 9:00～18:00

小児歯科 2:00～18:00

夜間診療／月・金曜日

18:00～20:00

休診日／木・日曜日・祝日

入口は手動の引き戸になっています。
1階は車いす用の診療室になっており、
車いす用トイレも完備されています。院長の石田鐵男先生は、開業当時から身障者の治療に関わってこられ、良く冗談を言つては患者をリラックスさせて下さるやさしい先生です。予約が必要です。

建築一式工事

株式会社
中武建設工業

本社 宝塚市大原野字下岡21-1

TEL 0797-91-0300

みんなで成功させよう！ 第3回車いすウォークラリー

ご友人・ご家族お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

◆日時／1992年11月3日（文化の日）

※雨天の場合は市役所の中を利用。

宝塚市役所福祉推進課（TEL71-1141
内線2535）へご確認ください。

◆集合場所およびスタート地点／

宝塚市役所福祉推進課前

◆内容／9：00 受付（宝塚市役所駐車場）

9：30 開会式、オリエンテーション、介助講習

10：00 ウォークラリー

12：30 昼食

13：30 表彰式・閉会式

◆コース／

宝塚市役所を出発し、逆瀬川周辺を散策する2kmから6kmぐらいの距離です。身障用のトイレは、市役所の中とコース途中にあります。

◆対象／心身障害者・児、その家族、ならびに同伴・介助していただける方などなたでも参加して戴けますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

◆参加費／500円(昼食費、当日受付にて)

◆連絡先／障害者情報クラブ事務局

TEL 89-8229 FAX 88-0779(自動)

宝塚市役所福祉推進課

TEL 71-1141 (内線 2535)

◆締め切り／10月31日（土）

◆ボランティア・スタッフ募集／

準備や、当日お手伝いいただける方（障害を持たれる方の介助・食事の準備・バザーの手伝い・各チェックポイント係・駐車整理係・その他）は、事務局までご一報ください。

今年もいろいろと、みんなで楽しめるものを準備していますので、各人自分のコンディションを整えて、当日には、皆さん元気にご参加下さいますようお待ちしております。

編集後記

創刊号を出してから1年近い月日が流れ、やっと第2号の発行にこぎつけられました。

創刊号発行の後、ウォークラリー、車いすガイドマップ・マイロード&フリーウエイの編集、講演会やパネルディスカッションが十数回等行事に追いまくられて、と言うより編集責任者である事務局長（私）の怠慢で、関係者の皆さんにはご迷惑をおかけしましたが、この度“Ad.びのきね”（TEL0797-84-1949）に編集をお願いし、発行することができました。これからは年に4回は発行したいと思いますので、関係者の皆さんからの投稿並びに情報提供等、ご協力を宜しくお願ひいたします。（事務局長・坂上）

『K S K P 障害者情報クラブニュース No.2』

編集者：障害者情報クラブ広報部

編集責任者：障害者情報クラブ代表 井上 聖

本部・事務局：665 兵庫県宝塚市中筋8-19-7 坂上正司方

TEL 0797-88-4329(昼) 89-8229(夜) FAX 88-0779(自動)

銀行振込口座：さくら銀行逆瀬川支店 普通 3566211

ショウガイシャショウカウカクブ イハセ キヨシ

障害者情報クラブ 井上 聖

郵便振替口座：神戸 2-45964 障害者情報クラブ

1992年8月5日発行（毎日発行）
発行人：関西障害者定期刊行物協会
大坂市城東区207号
東中浜42号
1908年4月13日
第3種郵便認可

【緊急レポート】

????↑

宝塚市の公共施設の光と影

????↓

更衣室が男女兼用のプール

宝塚市は、この春から夏にかけてたて続けに新しい公共施設の建設設計画と竣工予定の発表をした。ひとつは、小林にこの秋から建て始め再来年春に完成予定の市立西公民館・図書館。もうひとつは、小浜の市立スポーツセンター内にこの秋竣工する温水プール。この2つの公共施設の建設に於いて、宝塚市の障害者への対応の光と影、功罪を見ることができる。

◎ 市立西公民館・図書館

おそらく企画段階から設備面でこれだけ障害者の意見が取り入れられた公営施設はない。

昨年7月に提出した要望書に応える形で8月に、市建築課、福祉推進課、公民館長を交えて、話し合い（最初は「説明会」ということだったが、「説明会」では私たちの意見が反映されないとして拒否して「話し合い」へ変更させた）が持たれた。勿論、この時点で企画は何もなかった。企画が、ほとんど白紙の状態で利用者の意見が取り入れられたのは、宝塚では画期的と言える。なにしろ、総合福祉センターを建設する時でさえ、市役所の福祉担当者が意見を述べるに留り、利用者の意見などなぜ聞かなければならないのかという風潮すらあった。ましてや、当時の福祉担当者が障害者を何も分かっていないにもかかわらず、障害者のオーソリティーを自負していた為に、あのような非常に使い勝手の悪い総合福祉センターができてしまった。

そして、8月の話を踏まえて2月に青写真ができるまで、説明及び話し合いが行なわれた。こちらの要望は7割弱程度受け入れられていた。設備面の3割と相変わらず運営担当の教育委員会が出席していないという宿題は残したもの、取り敢えずゴーサインを出すことにした。

話し合いの内容について簡単に列記する。まず、周辺整備として、阪急小林駅の完全アクセスブル化と駅からのアプローチ歩道の整備をもとめたが、相変わらずやる気はない。以前から要望している駅改造の助成制度についても、「阪急ならそのうちやるでしょう」と他人毎のようである。玄関アプローチほぼ要望通り。駐車場は、専用を全収容台数の5~10%の率は確保して欲しいと要望したが未達成。内部ほぼ要望通り。エレベータ、トイレなどは入口から近くわかりやすい位置にあり、表示も分かりやすい。トイレは、東公民館のように鍵を掛けるというばかなまねはしないようにと、強く要望しておいた。各種電話設置、街角FAXの導入は全市的課題として検討中とのこと。この様なことは、市が率先してやらなければならないことなので早急に対応してもらわなければならない。聴覚障害者や言語障害者の電話に代るコミュニケーション手段としてのパソコン通信を可能にする為の公衆モジュラージャックの開放については、NTTと協議して決めるとのことだったが、ニューメディアを推奨しているのなら先駆的にやっていくものではないだろうか。ホールの樂屋、舞台、和室に

も車いすで入れる。当たり前のようにだが、総合福祉センターの舞台は未だに障害者を寄せつけない。スロープをつけようという気もない。調理室などは高さ可動式のテーブルを導入。電磁誘導ループ装置各部屋にセット。現在、他の施設で利用されている固定式のOHPでは用途が限定されるし他の部屋で使えないで移動式にして欲しいとの要望については、検討中ということで返事はもらっていない。その他に、避難用外部スロープが一部取り付けられることになった。障害者の緊急時の安全対策については消極的というより全くやる気のなかった宝塚市としては画期的なことといえよう。何しろ、8月の話合いの2日後に行なわれた市長&部課長クラスとの話合いの時に「市役所にも同様の施設を」と要望したところ、「火事をださなきゃいいんでしょ」という情けない返事でしかなかったからだ。

◎ 温水プール

2月26日、車いでの体育館の利用をかたくなに拒否してきたことへの抗議、開放の要望と昨秋発表された温水プールについての要望をするため情報クラブと肢体障害者協会、市内のスポーツ愛好障害者が市立体育館に集った。集った中で、市内の施設を使っている障害者は僅かに一人。これはスポーツ人口が少ないからではない。みな市内の施設の利用を拒否された為に西宮や伊丹、果ては尼崎まで出向いてスポーツをしなければならないという状況だからだ。スポーツセンター側は、以前福祉課において「障害者のことは分かっている」と自負する中野参事と係長。

まず、体育館の利用拒否については、してない水掛け論になってしまった。しかし、利用して欲しくないというニュアンスは十分に伝わってきた。そこを押し切り一般者として扱うことを条件に利用できるようになった。結局はそれまで拒否していたことを自ら証明したことになっているのだが。...しかし、一般と同じというのは制約がある。夜になると自動扉の電源が切られるのだ。つまり、よるは障害者続出し状態となる。隣接歩道の放置自転車も「私たちの責任ではない」「利用者のモラルの問題」と責任転嫁をしている。

プールについては様々な要望を出して、その日の話合いは終った。

7月24日、つまりこのニュースを発送する前日に完成した温水プールの見学会を行なった。出席者は、前回の出席者に視力障害者協会を加えたメンバー。スポーツセンター側は、中野参事と係長。

唖然、なんと**更衣室が男女兼用**。全体として、案内表示が分かりにくく、視覚障害者に対する配慮は点字ブロック、点字案内版も何もない。車いす用の観覧席もあるにはあるが、やはり案内表示がない。車いす利用者の入水方法は何も考えていない。つまり、マットもなにもない。要約すると、2月に出した要望は完全に無視されている。

なんの対応もない理由として、人がない、金がない、スペースがない、芸のないオウムの様な答ばかり。現場の係長が、「それはできると思います」と答えて、現場で利用者と接することのない中野参事が、「勝手なこと言うな」と横槍を入れる。更衣室が男女兼用? このように障害者を人とも思わない、障害者の人権を全く無視した中野参事、そしてそんな意見を通してしまるスポーツセンター(=宝塚市)の仕打は絶対に許せない。(事務局)